

■対米依存症からの脱却

河野 信

石原莞爾の予言

石原莞爾は昭和20年（1945）8月28日、毎日新聞の求めに応じて「世界文化の達観と心よりの懺悔」と題して以下の論稿を発表しました。

「(前略) 日本は今後物心両面に亘る恐るべき疾風怒濤（しっふうどとう）時代を迎えるのである。アメリカは自己の善と信ずる生活文化、様式、思想を滝の如く注いで日本をアメリカ化せんとすることは明らかである。それは教育に浸透し、生活を風靡（ふうび）するに至るであろう。それに英国的、ソ連式思想が加わってくる。日本の思想、醇風美俗（じゅんふうびぞく）、世界人心は滔々（とうとう）たる大勢に押し流され、寸断されもみくちやにされる。私は日本は思想的にどん底まで叩き落とされるものと確信する。(後略)」

この言葉通り60年後の日本は完全にアメリカ化してしまいました。現在の日本は、アメリカに対して物心両面においてほぼ全面的に隷属（れいぞく）したと言っても良いでしょう。日本の思想、醇風美俗は何処へ行ってしまったのでしょうか。日本は思想的にどん底まで叩き落とされてしまいました。

多くの学者、評論家は何かというと「アメリカではこうだ」「ワシントンポストにはこう書いてある」とアメリカ式の知識を英単語を交えてひけらかします。全く情けない限りです。

漢字学者の白川静さん（94）は毎日新聞の「この国はどこへ行こうとしているのか」という特集コラム（04/12/13）で、次のように現代を憂えています。

「春秋の筆法で言えば、これを附庸（ふよう）という。属国のことだ。同盟という言葉でごまかしているが、首都の近くの空港を彼らが使っておって、首都の入り口の軍港を彼らが使っておって、こんな同盟がどこにありますか。(中略) (日本はアメリカにとってつけたしの国、プラスワンです)

社会学者の鶴見和子さん（86）は、同紙のコラム（04/12/16）で「今の日本は大変よ。一番問題なのはイラク派兵。憲法では海外派兵は出来ないの。03年のエビアン・サミットで、小泉純一郎首相はブッシュ米大統領の隣で得意満面だった。私はテレビで見て『あれは危ない笑顔だなあ』と思ったの。そうしたら、派兵を約束しているのね。国会でちゃんと審議しないうちによ。…」

西洋中毒

神武天皇の建国以来、二千年の歴史を持つ日本人が、何故60年の間にアメリカ化してしまっただけでしょうか。

石原莞爾は日本人が西洋中毒に罹ったからだ、と言っています。

● 明治以前に渡来した欧米人の大多数は、日本人は正直にして平和を愛する民族であると賞賛している。

即ち日本人の今日の姿は、決してその本性でないことが明瞭である。

● 西洋文明の輸入が明治維新以降余りに急速に行われたために、消化不良になり中毒症状を呈した。

● アジアにおける唯一の独立国となった日本は、日露戦争によって国威を輝かし、第一次欧州戦争に参加して

世界列強の一つに数えられるに至って遂に増上慢になった。

● 「渴しても盗泉の水を飲まず」とする旧道徳観は、(大戦完敗の衝撃により) アメリカの「優勝劣敗」の信念に

会っては全く力を失った。(『新日本の建設』1945より要約)

東京裁判はアメリカの押しつけによる不当な裁判であるとする多くの人も、現在のアメリカの功利主義、能率主義、物質主義、権力主義をそのまま肯定しています。この人たちは、イラク人をただ武力だけで押しえつけようとするアメリカには異議を唱えることが出来ないのです。

我々は何としてでも「西洋中毒」を振り捨てて、アジアの心、日本の心を取り戻さなければなりません。

戦争している場合ではない

史上最悪の天災が発生しました。インドネシアのスマトラ沖大地震の津波による沿岸11ヶ国の犠牲者は、12/28・23000人、12/29・37000人、12/30・73000人と

日を追って増加し、1755年ポルトガル・リスボン地震の津波による犠牲者62000人を超え、さらに増加する勢いです。

今後実情が明らかになるに従って負傷者、家屋、生産設備、各種のインフラ等の被害は莫大なものになるでしょう。全世界を挙げて救援活動にあたるべきです。伝染病の発生も心配です。人類全体から見た場合、とてもイラクで戦争などやっている場合ではありません。

天災は人間が起こすものではなく、ある日突然に自然が暴発するのです。人間はこの発生を阻止することは出来ません。これに比べて戦争は、人間の意志によって起こすことも出来るし、止めることも出来るのです。

聖路加国際病院名誉院長日野原重明さん(93)は、広島に小澤征爾さんを招き平和音楽会を開くことになりました。(小澤征爾さんの父小澤開策は満州事変の時、満州青年連盟の幹部として山口重次とともに石原莞爾を助け、満州建国の基礎を造りました。小澤征爾の征は板垣征四郎から、爾は石原莞爾から貰ったとされています)

その日野原さんの言葉です。(04/12/18 朝日新聞)

「米国とイラク間の終わりの見えない戦争を目の当たりにして、太平洋戦争を体験した私たち老人たちは、世界平和の実現を見届ける望みが消えてしまったことを実感しました。孫の世代にどんな遺言を残すべきか、今や苦悩しているのが現状です。

(中略)

私の話を聞いた府中市の10歳の男の子から来た感想文を紹介します。

『今の大人は、やられたらやり返すので、その結果、戦争になってしまう。やられたらやり返すのではなく、受け身になり、今度からはやるなよ、と言えは戦争はしだいになくなるだろう。…』

アメリカの「優勝劣敗・適者生存」の思想を鵜呑みにした日本社会は、「勝ち組」と「負け組」をつくりました。その結果、自殺者は5年連続3万人を超えました。先進国のトップです。

イラクで「人道援助」をする余裕があるのなら、何故眼前の自殺者を救おうとしないのですか。この国の政治家は、しょっちゅうプラス・マイナスの計算ばかりしていて「生命」が一番大事であるとは思ってはいません。

日本は「アメリカ超帝国主義」の時代から一日も早く脱却しなければなりません。そのためにはどうしても、日本独自の生き方を必死になって探求しなければならないのです。